

こんにちは！

めぐりん菜通信をお読みいただきありがとうございます。

今月号は、「**豊田産業の飼料化リサイクル**」と「**近郊の野菜栽培**」  
「編集後記」をご紹介します。

まだ、寒い日はありますが三寒四温。春はもうすぐです。

(担当：齊藤)

## 豊田産業の飼料化リサイクル

通信NO.31で掲載した、みよし市の食品加工会社の食品残渣を原料に飼料化リサイクルの検討が始まっています。



飼料化は堆肥化と比べ原料(食品残渣)に高い品質が求められますが、低い飼料自給率、コスト競争力、通年の需要(堆肥が多く必要とされるのは植え付け時期である春と秋)などから、堆肥化より優先される課題です。

豊田産業として、肥料化とともに飼料化リサイクルにも取り組み、さらには、食品リサイクルループの可能性にも挑戦いたします。

## 近郊の野菜栽培

3月は野菜の端境期。冬野菜が終わり、春野菜への移り変わりの時期です。ニンジン(ニンジン)は葉が枯れて最後の収穫待ち。畑では、5月の出荷を目指してニンニクとタマネギがぐんぐん育っています。



ニンジン (廃棄された不良品)



ニンニク (寒さに抜群に強い)



タマネギ (マルチで保温)

## 編集後記

春を見つけに2月21日、西尾市の里山を散策しました。



日向では、春の定番スイセンと梅。お日様のはいる雑木林ではもうすでに小さなツクシとフキノトウが出ていました。春は間違いなくすぐそこです。

散策の後、翌日から一気に温かくなりました。芽吹いた春を見に3月の里山散策、おすすめします。

